

# アートボランティアのための シンポジウム～札幌における アートコミュニケーターの可能性

2016年

10月30日(日)

13:30～15:40 (13:00開場)

札幌市教育文化会館

研修室 305

(札幌市中央区北1条西13丁目)

入場無料  
先着・事前申込  
(定員100名)



札幌市民交流プラザ  
2018年10月  
オープン!!!

イベント

## 第1部

基調講演 「文化芸術の公共性と市民参画」

講師 片山 泰輔氏

(静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長)

基調報告 「文化施設を拠点とした、アート・  
コミュニケーターの働きについて」

講師 稲庭 彩和子氏 (予定)

(東京都美術館学芸員  
アート・コミュニケーション担当係長)

伊藤 達矢氏

(東京藝術大学 美術学部 特任准教授)

## 第2部

パネルディスカッション  
「札幌におけるアートコミュニケーターの可能性」

パネリスト

片山 泰輔氏

稲庭 彩和子氏 (予定)

伊藤 達矢氏

山田 修市

(市民交流プラザ開設準備室  
文化芸術交流センター事業課長)

進行 北村 清彦氏

(北海道大学大学院文学研究科教授)

## ● 対象

- ・アートボランティア
- ・ボランティア活動に興味のある方
- ・様々な分野でボランティア活動を行っている方  
(福祉、教育、子ども、まちづくり等)

## ● 参加申込

10月29日(土)までに①氏名②年齢③所属  
④連絡先⑤参加人数を記入のうえ、下記の方法で  
お申し込みください。


- ・メール (am@sapporo-community-plaza.jp)
- ・TEL (011-242-5800) 平日9:00～17:00
- ・FAX (011-242-5656)

主催  
お問い合わせ先

市民交流プラザ開設準備室(札幌市芸術文化財団)

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

TEL 011-242-5800 (平日9:00～17:00) HP <http://sapporo-community-plaza.jp>

 @Sapporocomplaza

 Sapporo.Community.Plaza

後援：札幌市 北海道

市民がボランティアに働くことで生まれる価値とは何でしょうか。近年札幌では、芸術祭等でアートを介したボランティアな取り組みが増加しています。日常の仕事とは別にお金では換えられない価値を得られる働きがあり、その2種類の働き方の両立は成熟した社会の中での「豊かな暮らしとは何か」を考える機会を与えてくれます。今回のシンポジウムでは、従来のボランティア活動のイメージを超えた、社会と人々をつなぐアートコミュニケーターの先進的な取り組みについて知り、「札幌におけるアートコミュニケーターの可能性」について探ります。

## パネリストプロフィール

### 片山 泰輔 氏

慶應義塾大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、同博士後期課程単位取得満期退学。慶應義塾大学大学院文学研究科非常勤講師、学習院女子大学大学院国際文化交流研究科非常勤講師等兼務。専門は財政・公共経済、芸術文化政策。公職として、文化審議会委員、文化政策部会長代理、日本文化政策学会副会長、公益財団法人東京交響楽団評議員、一般社団法人浜松創造都市協議会代表理事、クラシカジャパン番組審議委員等。1995年、芸術支援の経済学的根拠に関する研究で日本経済政策学会賞、2007年、著書『アメリカの芸術文化政策』で日本公共政策学会賞（著作賞）受賞。共編著に『アーツ・マネジメント』概論 三訂版』（水曜社、2009年）等。

### 稲庭 彩和子 氏

東京都美術館学芸員、アート・コミュニケーション担当係長。

青山学院大学大学院修士修了（日本美術史）、ロンドン大学（UCL）大学院修士課程修了（美術館学）。東京国立博物館に非常勤勤務の後、神奈川県助成を得てイギリスの大英博物館日本部および教育部で職業研修。神奈川県立近代美術館にて地域と連携したアートプロジェクトや、鑑賞キット「Museum Box 宝箱」の企画および展覧会を担当。2011年より現職。共編著に『100人で語る美術館の未来』（慶應義塾大学出版会、2011年）など。

### 伊藤 達矢 氏

東京藝術大学大学美術学部 特任准教授、とびらプロジェクト /Museum Start あいうえのプロジェクトマネージャー。2009年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了（博士 / 美術教育）。福島県で行われている文化による復興支援事業である「森のはこ舟アートプロジェクト」ディレクターをはじめ、数々のアートプロジェクトを手掛け、地域社会とアートを結びつける活動に従事する。現在、アートを介したオープンで実践的なコミュニティの形成を目指すプロジェクト「とびらプロジェクト」のプロジェクトマネージャーを務める。

### 山田 修市

市民交流プラザ開設準備室 文化芸術交流センター事業課長。札幌市芸術文化財団に所属。

人事異動により、札幌芸術の森、札幌コンサートホールなどの勤務を経て、2009年から札幌市教育文化会館事業課長に着任、2014年より副館長（管理課長）を務め、2016年より現職に着任。

### 北村 清彦 氏

京都大学文学部助手、島根大学法文学部助教授、北海道大学文学部助教授を経て、北海道大学大学院文学研究科教授。専門は美学。著書に『芸術解釈学—ポール・リクール主題による変奏』（北海道大学出版会）など。

## とびらプロジェクト

平成27年度で4年目を迎えた、アートを介してコミュニティづくりを育むソーシャル・プロジェクト。東京都美術館と東京藝術大学（以下、藝大）が連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を目指して活動している。一般公募の上、選考を経て集まった第4期アート・コミュニケータ（愛称：とびラー）は、学芸員と藝大の教員は対等に対話を重ねながら基礎講座や実践講座を経て、美術館や上野公園においてさまざまなプログラムを実施した。

とびラーの活動はボランティアな活動である。しかし、「アートを介してコミュニケーションを促進する人」という、その人の「働き」が明解であることが名称として最も重要と考え、とびラーをボランティアとは呼んでいない。とびラーは美術館や文化財を介して新たなコミュニケーション回路をつくる役割を持ち、学びと実践をくり返しながら推進している。